

一筆啓上

作左通信



第九十五号 平成三十一年二月一日(金) 発行

「作左の会 発足二〇年を迎えて」

作左の会は発足し、今年二〇年を迎えます。

本多作左衛門という郷土の英雄の生誕地に着目し、町興としての会の立ち上げをされた当時の総代さん達に改めて敬意を表したいと思います。

平成十一年十二月二十六日、宮地町公民館での発会式の様況期待感とあの熱気は今でも鮮明に思い出されます。

その後の活動としては、

作左の会 会長 山田 靖

【ふるさと六ツ美西部】の出版、

【ふるさと六ツ美西部写真史】

の発行、【作左通信の合本】のほ

か、俳句短歌の【ふるさと賞】の

開始など素晴らしい活動をして

こられました。

私はこの会発足以来いろいろ

な角度から常にかかわってきま

したが、これら事業には常に歴

代総代さんはじめ多くの皆様の

協力有ったのであります。

そこで、本題は今からですが、

私が会長を引き継いでこの一年間、問い続けてきたことがございます。

それは、この会を発足させて

きた当時の先輩方はどんな思い

でこの二〇年を見守ってこられ

たのか、「ふるさとを思い、家族

の絆を大切に思う作左の精神」

を後世に引き継ぎたいと、町興

しとして立ち上げた会が、本来

の役割を果たせたのか、また、今

後何を求めるかを自問自答して

きました。

そして、一点気になったのは、

【地域に根ざしているか】と

いうことです。皆さんの身近な

存在で有ったかどうかです。

そこで思いついたのは、学区

の皆さんがだれでも参加できる

事業はないだろうかです。

一つのテーマはふるさとです。

幸いこの地は歴史文化の宝庫で

す。新たにここに移ってこられ

た方、また昔からこの地にいる

方でも意外と地元の歴史を知ら

ないことが多いと思います。ぜ

ひ、ふるさと、第二のふるさとを

探ってみませんか。

そしてもう一つは日本古来の

文化に参加してみませんかとい

うことです。そこで新年度にむ

け次の二点について私の思いを

提案してまいりたいと思います。

① 「地域の歴史を探る会」

② 「俳句の会」

の立上げです。会員のみならず、

学区の多くの方に参加を呼びか

け、より地域のことを知って頂

き、多くの出会いと絆を深めて

頂けたらと思います。